

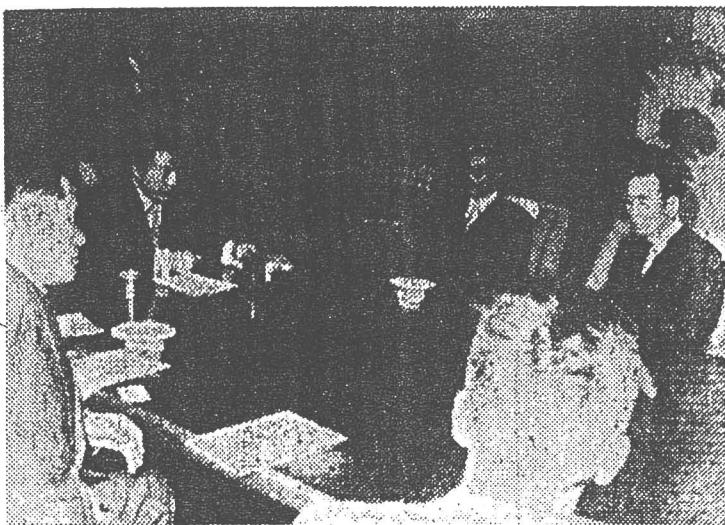
水俣病の補償交渉

解決八第二者機關

の互助会陳情

水病医療者家庭互助会の山本亦由会長ら交渉委員八人は、五年後東京、沙の進展について懇意したが、席上「寺本知事を中心にして公平な、第三者調停で意見が一致、今後の補償交渉の舞合は第三者機関に移る気配が強くなつた。

山本会長は事情を悉くし、公選の回にわたりチシン便と交渉の結果、九月八日、十月二十四一したが、なんの進展もなかつた。



園田厚相(左)に陳情する山本互助会長ら

的補償金額を示さない。これではいくら交渉を重ねても同じだと思う。チツソ側では、補償の基準になるべきものを国に示してくれるよう要望したと聞く。互助会としでは全国公害補償の第一号でありモデル的ケースになると想うので、公正で妥当な補償となるよう願っている」と述べ、「補償にさいし、政府の指標」を示してはいいと希望。さらに指標を出すことが無理であれば第三者機関をつくることに助力してほしいと陳情した。

これに対し園田厚相は「厚生者は人間の命を守る役所であり、その厚生者が人間の命に債務をつけようなど出来ない。第三者機関をつくることをお國にいたす」とはない。前もってて知事にはお國としてあるが、知事を中心にした公平な第三者機関をつくり解決す

この結果、補償交渉は第三者とのあつせん機関に持ち込まれる。公算が強くなつた。陳情後山本会長は「互助会と会社の自主交渉でこれまでの経過からみて、いつまでかかるかわからぬ。厚生省も補償の指標は出せないということを提案した。この機関で話し合いが出来る線を出してやれねうと思つ。水俣に帰つてさうそく総会を開き、互助会としての今後の態度を決める」と語つていた。

△守本知事の話 園田厚相からまだ何も聞いてないし、互助会、チツソ会社があつせんを依頼するよに思つた。それで

これに対し西田原邦は「厚生省は人間の命を守る役所であり、その厚生省が人間の命に傾斜をつけようなどは出来ない。第三者が機関をつくることに仲介の効はない。単もつて知事にはお國としてあるが、知事を中心にした公平な第三者機関をつくり解決す

◇寺本知事の話
國田寅相から
(東京支社)

で、いまのところなんども書えないと。また三十四年の場合と同じく、公爵爵位令がそぞろ出来る傾勢にある現在、第三者あつせん機関が法的にどうなるのか公爵爵位令に研究せねばならない。互助会、会社双方から依頼があれば、そのうえで検討する。